

沖縄県立宮古病院

日本専門医機構

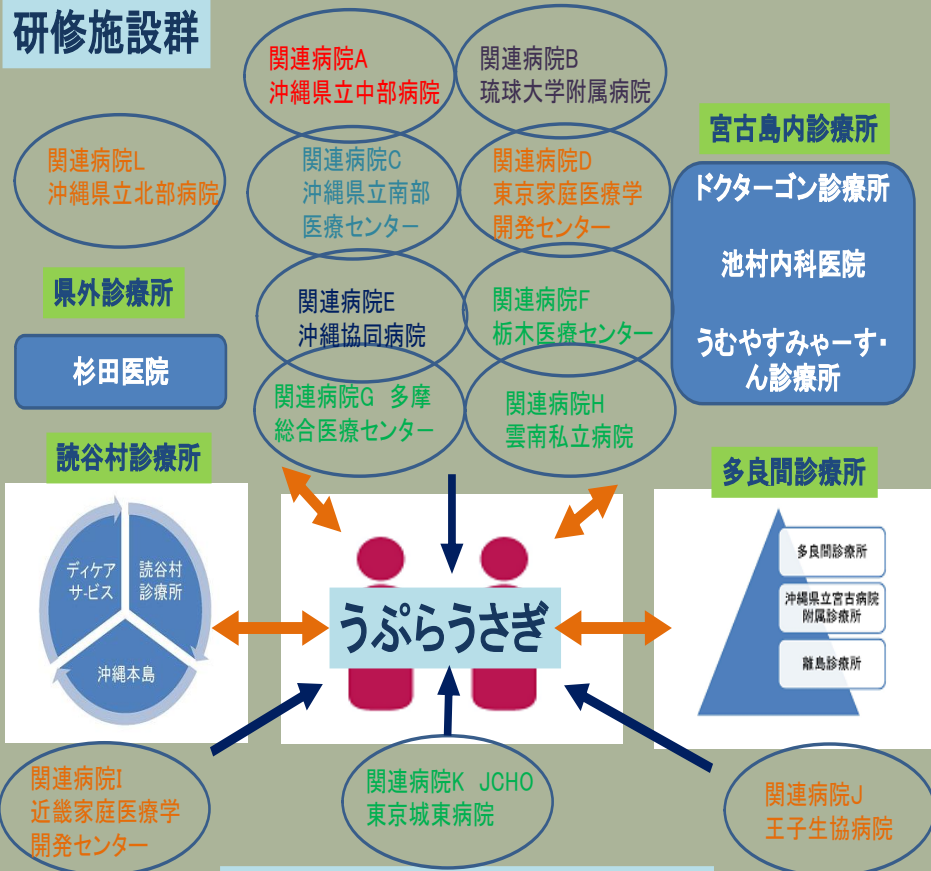
総合診療専門研修プログラム

うぷらうさぎ

金星



研修施設群



沖縄県立宮古病院: 基幹施設

研修施設群

関連病院A
沖縄県立中部病院

関連病院B
琉球大学附属病院

関連病院L
沖縄県立北部病院

関連病院C
沖縄県立南部
医療センター

関連病院D
東京家庭医療学
開発センター

県外診療所

杉田医院

関連病院E
沖縄協同病院

関連病院F
栃木医療センター

宮古島内診療所

ドクターゴン診療
所

池村内科医院

うむやすみや
す・ん診療所

読谷村診療所

関連病院G 多摩
総合医療センター

関連病院H
雲南私立病院

多良間診療所



うぷらうさぎ

多良間診療所

沖縄県立宮古病院
附属診療所

離島診療所

関連病院I
近畿家庭医療学
開発センター

関連病院K JCHO
東京城東病院

関連病院J
王子生協病院

沖縄県立宮古病院：基幹施設

うぶらうさぎは



Japan

ひととひとの交わりが宝

China

Taiwan



Miyako Island

宮古島(宮古群島)の紹介

North Latitude 24° Island Chain

北緯 24～25度 東経 125～126度

東京から2000 k m 沖縄島から290km 離れた洋上に浮かぶ大小8つの島々で構成されている（うち3島は架橋あり）。

人口は約52,701人（2017年2月時点）、年間出生数が約600人

島内には3つの病院（当院、徳洲会病院、宮古島温泉リハビリ病院）と

37の開業医がある。精神科開業医が1施設。多良間島に附属診療所

国立療養所・宮古南静園（ハンセン病施設）歯科医院 27施設

宮古島の高齢化率は県内5圏域で最も高く、平成27年（2015年）の24.9%

から、2025年には31.7%、2040年には35.2%に上昇すると予測されている



大神島



2015 1・31 伊良部大橋開通

宮古島で家庭医療・総合診療を共に学びませんか



ひとつひとつの交わりが原点

南の楽園・宮古島での出会いを待っています

うぶらうさぎの歴史

2014年4月	開始	専攻医 1名	
2015年4月	家庭医療センターオープン		専攻医 4名
2017年4月		専攻医 2名	
2018年4月		専攻医 1名 (日専)	
2020年4月		専攻医 2名	

これまで専攻医9名と他プログラム専攻医4名が
当院うぶらうさぎでトレーニングを受けています

家庭医療専門医取得者 5名 受験予定1名

南の楽園でのよりそう医療を展開

うぶらうさぎ専攻医のキャリア形成

2019年4月 うぶらうさぎ出身の家庭医療専門医1名
多良間島で診療所医師として活躍
現在2年目に入っている

2018年4月 うぶらうさぎ出身の家庭医療専門医1名
鳥取大学医学部地域医療講座で家庭医療
専門医として活躍

専攻医あなたを待っています

うぶらうさぎ専攻医は

宮古病院で総合診療研修Ⅱとして

外来業務、病棟業務、救急当直を中心に研修します

島内外の診療所で総合診療研修Ⅰとして

外来、訪問診療を中心に研修します

うぶらうさぎ



金星

「うぶらうさぎ」の由来

「うぶらうさぎ」とは、宮古島の方言で「金星」という名前です。「金星」は恒星や惑星の中で最も明るく光り輝く星です。

「うぶら」とは大きな子という意味です。太陽のまわりをまわる惑星は皆、太陽の子・「ていだぬふら」になります。太陽の子・「ていだぬふら」の中で一番大きな子、つまり「金星」が「うぶら」なのです。

「うさぎ」は「見送る」という意味です。宵の明星とも呼ばれる金星はしばしば太陽が沈んでいくのを日々見送るかのごとく西の空に明るく光り輝いております。そうして私らもまた金星が沈んでいくの見送るのです。

そのような自然観察の中で金星の宮古方言名・「うぶらうさぎ」が生まれたのです。

医の原点は地域と共に在ります。研修医らは地域を照らすヒューメンの灯としての光輝く可能性を大きく潜ませています。沖縄県立宮古病院の家庭医療後期研修を修了する研修医らひとりひとりが、金星・「うぶらうさぎ」のように輝く星となり、地域医療の担い手として、地域のヘルスケアの推進者として、日本の各地域に、そうして世界に巣立って行って欲しいと願っております。その願いを「うぶらうさぎ」という名に込めました。そして宮古島というこの地に「うぶらうさぎ」という名が誕生したのです。



うぶらうさぎ

金星

「うぶらうさぎ」の由来

「うぶらうさぎ」とは、宮古島の方言で「金星」という名前です。「金星」は恒星や惑星の中で最も明るく光り輝く星です。

「うぶら」とは大きな子という意味です。太陽のまわりをまわる惑星は皆、太陽の子・「ていだぬふら」になります。太陽の子・「ていだぬふら」の中で一番大きな子、つまり「金星」が「うぶら」なのです。

「うさぎ」は「見送る」という意味です。宵の明星とも呼ばれる金星はしばしば太陽が沈んでいくのを日々見送るかのごとく西の空に明るく光り輝いております。そうして私らもまた金星が沈んでいくの見送るのです。

そのような自然観察の中で金星の宮古方言名・「うぶらうさぎ」が生まれたのです。

医の原点は地域と共に在ります。研修医らは地域を照らすヒューマンの灯としての光輝く可能性を大きく潜ませています。沖縄県立宮古病院の家庭医療後期研修を修了する研修医らひとりひとりが、金星・「うぶらうさぎ」のように輝く星となり、地域医療の担い手として、地域のヘルスケアの推進者として、日本の各地域に、そうして世界に巣立って行って欲しいと願っております。その願いを「うぶらうさぎ」という名に込めました。そして宮古島というこの地に「うぶらうさぎ」という名が誕生したのです。

